

情報処理技能検定試験

表 計 算

模擬問題集

初段_編

Microsoft Excel 2013
試験問題解答方法
2023 年 4 月



日本情報処理検定協会

情報処理技能検定試験（表計算）についての注意事項や作成手順などを紹介します。ここで紹介する手順は、Microsoft Excel2013 を基に説明しています。

練習を始める前に

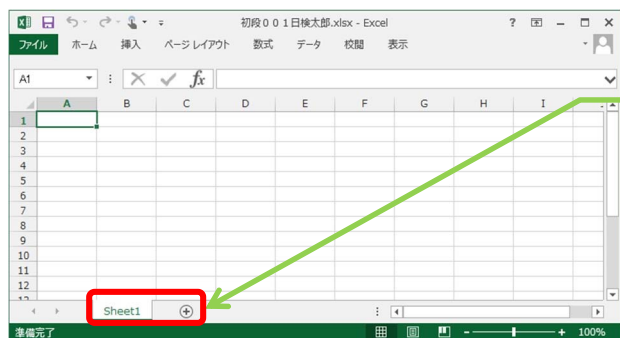
初段で使用する Excel の機能

初段は、すべての問題で複数のシートを使用してそれぞれ表やグラフを作成します。

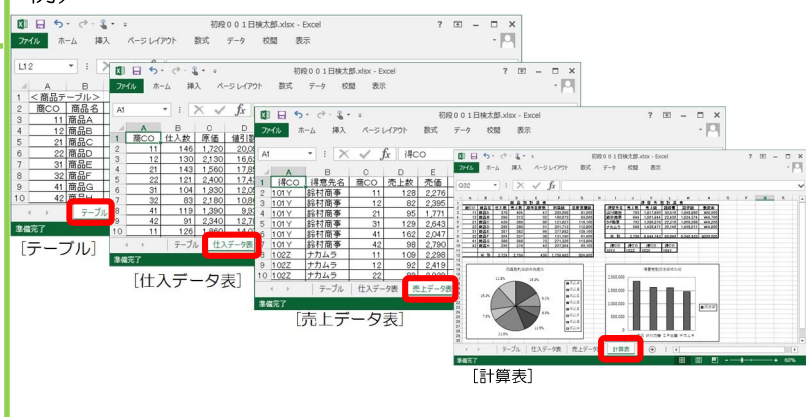
Excel 画面下にある「Sheet1」がシートのタブになります。

- ・シートを増やす
- ・シートの名前を変更する
- ・シートの切り替え

などを行い解答を進めます。※操作の手順は解答方法を参照。



例)



問題の構成

問題は、A3サイズの見開きとなります。試験開始前には下図のように折り畳まれ下図のように「説明文」がある面が上になった状態で配布されます。試験実施まで開くことはできません。

主催 日本情報処理検定協会	
情報処理技能検定試験(表計算) 初段 問題	
試験時間	30分

1. <入力データ>を基に、<処理条件>に従って表およびグラフを完成しないさい。
2. 表頭は表の中央、見出しは中央揃え、文字は左揃え、数字は右揃えとし、3桁ごとにコンマをつけること。
3. <出力形式>に「合計」「平均」などがある場合は、関数により処理を行うこと。ただし「――」部分は空白とする。
4. 表には罫線を引くこと。（罫線の太線と細線は区別する。外枠は太線とする。）
5. 使用したテーブルの表の形式は問わない。
6. 【 】 内文字はシート名とする。テーブルや作成する表にシート名があるものは、それぞれこのシート名でシートを作成し、処理を行うこと。
(例 <出力形式1> 【前期】・【中期】・【後期】 前期、中期、後期の各シートを作成し、それぞれ指示された表を作成する。)
7. 作成したデータは事前に準備したファイル(初段・受験番号・名前)に上書き保存する。
(例：初段101日検太郎)

■破線内の文章について

破線内の内容は、検定の基本的なルール（項目の配置や表示形式の設定など）が記載されています。詳細は18ページをご確認ください。

採点の対象となる項目もありますので、試験や練習する前によく読んで解答してください。

開始の合図で問題を開きます。中は下図のような構成になっています。

＜入力データ＞

＜商品テーブル＞
＜割引率テーブル＞
＜得意先テーブル＞

＜処理条件＞

検定問題文

＜入力データ＞（各24件）※テキストデータは、右のフォルダー内のデータを使用する。

【得意先データ表】				【商品データ表】				【得意先テーブル】				【商品テーブル】				【割引率テーブル】			
得意先ID	得意先名	得意先住所	得意先電話番号	商品ID	商品名	商品説明	商品在庫数	得意先ID	得意先名	得意先住所	得意先電話番号	商品ID	商品名	商品説明	商品在庫数	得意先ID	得意先名		
11	140	1,720	1017	11	125			11	商品A	2,400	71	11	商品A	2,400	71	11	商品A		
21	140	1,560	1017	21	95			21	商品B	2,610	69	21	商品B	1,900	69	21	商品B		
31	101	1,900	1017	31	129			31	商品C	3,160	63	31	商品C	3,160	63	31	商品C		
41	120	1,220	1017	41	102			41	商品D	2,880	64	41	商品D	2,880	64	41	商品D		
51	90	2,220	1047	51	179			51	商品E	2,310	71	51	商品E	2,310	71	51	商品E		
61	120	1,490	1047	61	108			61	商品F	2,250	63	61	商品F	2,250	63	61	商品F		
71	81	2,130	1047	71	129			71	商品G	3,040	62	71	商品G	3,040	62	71	商品G		
81	120	1,220	1047	81	109			81	商品H	2,310	63	81	商品H	2,310	63	81	商品H		
91	70	4,450	1047	91	101			91	商品I	2,310	63	91	商品I	2,310	63	91	商品I		

※商品IDは得意先IDの右から1文字目。

＜得意先テーブル＞

1. ＜入力データ＞（テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式）を使用し、＜出力形式1＞のような表を作成。

＜出力形式1＞【得意先データ表】

得意先ID	得意先名	得意先住所	得意先電話番号
（途中省略）			
合計			

1) 得意先IDは＜得意先データ表＞を参照し求める。

＜得意先テーブルの計算式＞

得意先ID	得意先名	得意先住所	得意先電話番号
1017	140	1,720	1017
1017	140	1,560	1017
1017	101	1,900	1017
1017	120	1,220	1017
1017	90	2,220	1017
1017	120	1,490	1017
1017	81	2,130	1017
1017	120	1,220	1017
1017	70	4,450	1017

※得意先IDは得意先IDの右から1文字目。

2) 仕入額＝得意先ID×仕入額－得意先ID

2. ＜入力データ＞（テキストデータ、日本語シフトJIS、CSV形式）、＜得意先テーブル＞、＜商品テーブル＞、
＜割引率テーブル＞を使用し、＜出力形式2＞のような表を作成。

＜出力形式2＞【得意先データ表】

得意先ID	得意先名	得意先住所	得意先電話番号	仕入額	売上額
（途中省略）					
合計					

1) 得意先IDは＜得意先データ表＞を参照し求める。

2) 売上額＝仕入額×（1－割引率）（整数未満切り捨て）

3) 売上額＝売上額×売上数

3. ＜出力形式1＞、＜出力形式2＞、＜商品テーブル＞を基に、＜出力形式3＞のような表を作成。

＜出力形式3＞【計算表】

得意先ID	得意先名	仕入額	売上数	売上額	利益額	在庫見込額
（途中省略）						
合計						

1) 得意先IDは＜商品テーブル＞を参照し求める。

2) 仕入額、売上数は得意先の得意先IDの値を集計。

3) 期末在庫数＝期首在庫数＋仕入額－売上数

4) 利益額＝売上額－仕入額 ※各項目は得意先の得意先IDの値を集計

5) 在庫見込額＝仕入額×期末在庫数×0.7（100位未満切り捨て）

4. ＜出力形式2＞を基に、＜出力形式4＞のような表を作成。

＜出力形式4＞【計算表】

得意先ID	得意先名	仕入額	売上数	売上額	利益額	在庫見込額
（途中省略）						
合計						

1) 売上数、売上額は、得意先の得意先IDの値を集計。

2) 利益額は＜利益額の計算式＞を参照し求める。

＜利益額の計算式＞

得意先ID	得意先名	仕入額	利益額
1017	140	1,720	1017
1017	140	1,560	1017
1017	101	1,900	1017
1017	120	1,220	1017
1017	90	2,220	1017
1017	120	1,490	1017
1017	81	2,130	1017
1017	120	1,220	1017
1017	70	4,450	1017

※利益額は100位未満切り捨て。

3) 請求額＝売上額＋請求額

4) 販売金＝200,000×（請求額の合計）（100位未満四捨五入）（¥表示）

5) 請求額の降順に並び替える。

5. ＜出力形式3＞を基にグラフを【計算表】シートに作成。 6. ＜出力形式4＞を基にグラフを【計算表】シートに作成。

1) グラフの種類は、得意先IDの利益額の割合を棒グラフ。2) グラフの種類は、得意先IDの請求額の縦棒グラフ。

2) グラフタイトル、凡例、データラベルの表示形式は以下の 2) グラフタイトル、凡例は以下のとおりとする。

得意先別利益額の構成比

得意先ID	得意先名	利益額	割合
11	商品A	2,400	11.8%
21	商品B	2,610	12.5%
31	商品C	3,160	14.8%
41	商品D	2,880	13.4%
51	商品E	2,310	10.8%
61	商品F	2,250	10.5%
71	商品G	3,040	14.1%
81	商品H	2,310	10.8%
91	商品I	2,310	10.8%

得意先別請求額の比較

得意先ID	得意先名	請求額
11	商品A	2,400
21	商品B	2,610
31	商品C	3,160
41	商品D	2,880
51	商品E	2,310
61	商品F	2,250
71	商品G	3,040
81	商品H	2,310
91	商品I	2,310

本問題で使用する CSV ファイルの入っているフォルダーとファイル名（[] で囲まれている文字がファイル名）、またデータの一部内容、データの件数などが記載されています。＜入力データ＞は問題ごとに異なります。

■＜商品テーブル＞・＜割引率テーブル＞・＜得意先テーブル＞

本問題の処理条件の中で使用するテーブルや表が記載されています。これらのテーブルは、「テーブル」シートに入力します。使用するテーブルは問題ごとに異なります。

■＜処理条件＞

本問題で作成する表の形式である＜出力形式＞や、表を作成する際に設定する計算式などの処理が記載されています。

＜処理条件＞の中に、どの出力形式で作成するかの指示があるので、指示に従い作成します。

最終的にこの形式の表を作成し、答案として提出します。

＜処理条件＞や作成する表の形式、数は問題によって異なります。

検定のポイント

初段と下位級の違い

- 答案はデータのみ提出となります。印刷は必要ありません。
- CSV ファイルのデータをインポートして表を作成します。
- 複数のシートに表を作成し、それらのシートを活用して＜処理条件＞にある内容で処理をし、表を完成させます。
- ＜処理条件＞のそれぞれの項番ごとに＜出力形式＞があり、指示に従って作成します。

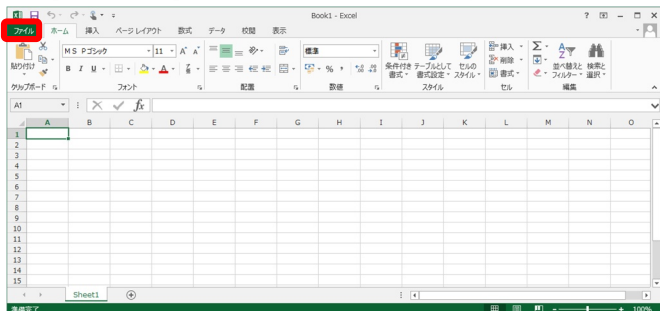
2

試験前にすること

ファイルの保存

作成するファイルに名前を付けて保存します。ここではデスクトップにファイルを保存します。

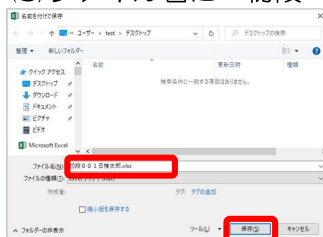
(1)[ファイル]タブをクリックします。



(2)[名前を付けて保存]-[この PC]を選択して、任意の場所を選択します。



(3)ファイル名に「初段・受験番号・名前」を入力して[保存]をクリックします。



検定のポイント

- ・受験番号は試験日当日までに発表されます。
- ・ファイルの保存場所は試験監督の指示に従ってください。

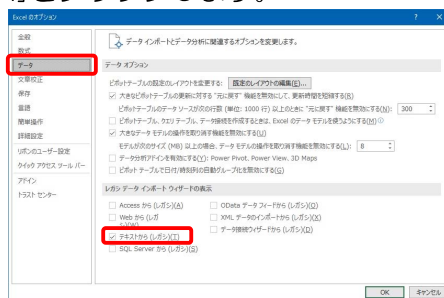
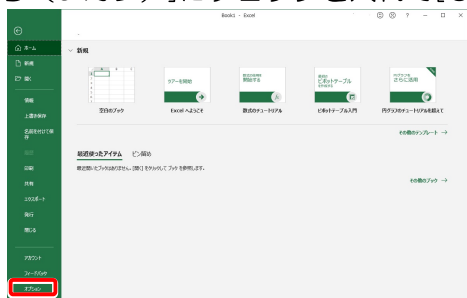
試験終了後このファイルに上書き保存をします。

操作のポイント

Excel のバージョンによっては、テキストインポートウィザードでインポートができない場合があります。事前に下記の設定を行ってください。

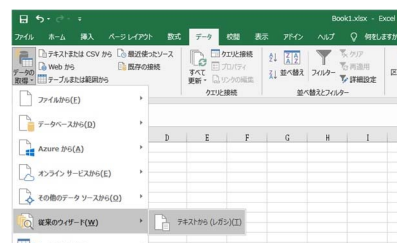
■インポート事前設定

[ファイル]タブ-[オプション]-[データ]の[レガシデータインポートウィザードの表示]にある、[テキストから(レガシ)]にチェックを入れて[OK]をクリックします。



■インポートの方法

[データ]タブ-[データの取得と変換]グループ-[データの取得]-[従来のウィザード]から、[テキストから(レガシ)]を選択し、インポートを進めます。



初段解答方法

CSVファイルを使用して表を作成する

初段では、あらかじめ用意されているCSV形式のデータを使用して表を作成します。

<入力データ> (24件)

【仕入データ表】

商C O	仕入数	原価
11	146	1,720
12	130	2,130
21	143	1,560
22	121	2,400
31	104	1,930
:		
22	92	2,220
31	128	1,690
32	81	2,120
41	123	1,220
42	79	2,450

Excel で開いた CSV ファイル

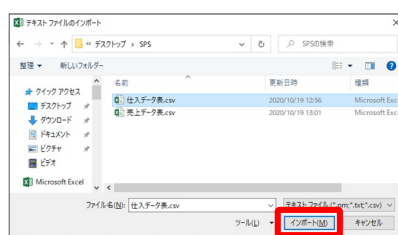
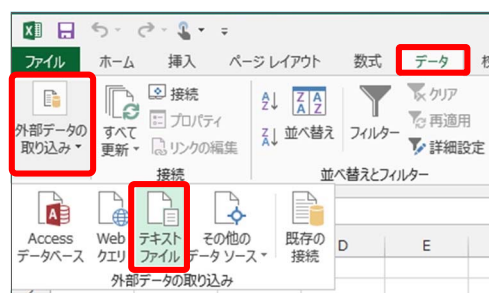
名前を付けて保存した Excel ファイル

例. <入力データ> (テキストデータ、日本語シフト J I S、CSV形式) を使用し、<出力形式 1 > のような表を作成。

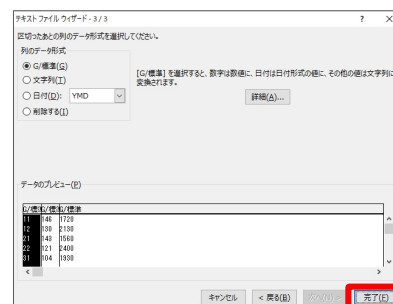
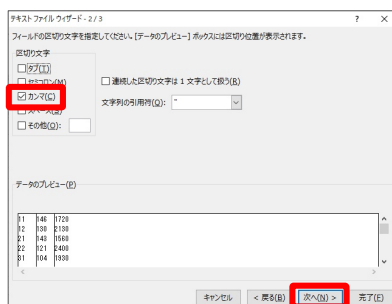
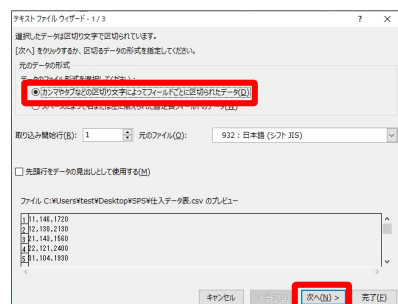
<出力形式 1 > 【仕入データ表】

商C O	仕入数	原価	値引額	仕入額
(途 中 省 略)				
合 計				

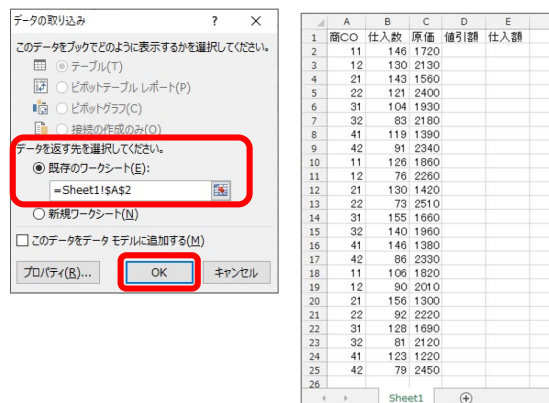
(1) [データ]タブ-[外部データの取り込み]-[テキストファイル]を選択し、任意のファイルを選択して[インポート]ボタンをクリックします。



(2) [カンマやタブなど区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ]を選択し[次へ]、[区切り文字]は [カンマ]を選択し[次へ]、[完了]をクリックします。



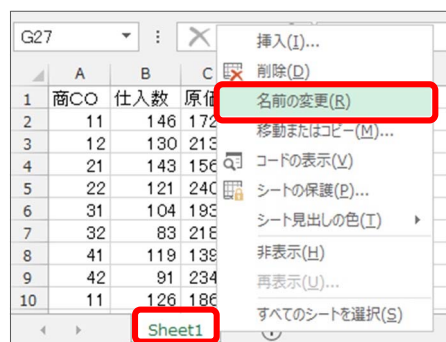
- (3) [既存のワークシート]に入力データを読み込む任意のセルの位置をセットし、[OK]をクリックします。
読み込み後、それぞれの列の見出しを問題文の<入力データ>を参照し入力、必要に応じ列を移動します。



操作のポイント

貼り付けたデータの見出しは<入力データ>を確認します。

- (4) シートのタブの上で右クリックし、[名前の変更]を選択、問題文の出力形式の [] 内を参照しシート名を入力します。(今回は [仕入データ表])



	A	B	C	D	E
1	商CO	仕入数	原価	値引額	仕入額
2	11	146	1720		
3	12	130	2130		
4	21	143	1560		
5	22	121	2400		
6	31	104	1930		
7	32	83	2180		
8	41	119	1390		
9	42	91	2340		
10	11	126	1860		

<処理条件>に従い、計算式などを設定します。

操作のポイント

CSV ファイルを直接開いて処理を進めても問題ありませんが、式やシートは CSV 形式のファイルでは保存されません。保存時に Excel 形式で保存するようにしてください。

CSV ファイルを開いて数式の設定やシート追加などの処理をし、そのままの形式で保存したあと再度開くと式を入れた項目は値になり、[テーブル]シートはなくなる。



仕入データ表.csv - Excel					
E2 : =C2*B2-D2					
A	B	C	D	E	
1	商CO	仕入数	原価	値引額	仕入額
2	11	146	1720	20090	231030
3	12	130	2130	16620	260280
4	21	143	1560	17850	205230
5	22	121	2400	17430	272970

仕入データ表.csv - Excel					
E2 : 231030					
A	B	C	D	E	
1	商CO	仕入数	原価	値引額	仕入額
2	11	146	1720	20090	231030
3	12	130	2130	16620	260280
4	21	143	1560	17850	205230
5	22	121	2400	17430	272970

新しいシートを追加する

シートの横にある + プラス記号のアイコンをクリックしてシートを増やし、シート名を変更します。

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ					
A2 : 11					
A	B	C	D	E	
1	商CO	仕入数	原価	値引額	仕入額
2	11	146	1,720	20,090	231,030
3	12	130	2,130	16,620	260,280
4	21	143	1,560	17,850	205,230
5	22	121	2,400	17,430	272,970
6	31	104	1,930	12,050	188,670

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ					
A1 :					
A	B	C	D	E	
1					
2					
3					
4					
5					
6					

ここからは初段で使用する関数や式の応用について解説します。

機能や式の応用

別のシートを参照する

別のシートにある表やテーブルを参照して処理を行います。

<商品テーブル>				<割引率テーブル>		<得意先テーブル>	
商CO	商品名	定価	期首在庫数	区分	割引率	得意CO	得意先名
11	商品A	2,480	73	X	9.1%	101Y	鈴木商事
12	商品B	2,610	69	Y	8.2%	102Z	ナカムラ
21	商品C	1,930	46	Z	7.3%	103X	SP総業
22	商品D	3,160	53			104Y	山川商店
31	商品E	2,880	64				
32	商品F	2,310	71				
41	商品G	2,230	53				
42	商品H	3,040	62				

商品別計算表						
商CO	商品名	仕入数	売上数	期末在庫数	利益額	在庫見積額
11	商品A	378	404	47	285,568	81,500
12	商品B	296	313	52	160,073	95,000
21	商品C	429	389	86	121,627	116,100
22	商品D	286	288	51	201,713	112,800
31	商品E	387	382	69	377,682	139,100
32	商品F	304	337	38	131,140	61,400
41	商品G	388	368	73	271,326	113,900
42	商品H	256	278	40	207,364	85,100
	合計	2,724	2,759	456	1,756,493	804,900

=VLOOKUP(A3, テーブル!\$A\$3:\$D\$10, 2, 0)

※「テーブル!\$A\$3:\$D\$10」は「テーブル」という名前のシートのセル範囲「A3 から D10」

※シート名の後に感嘆符「!」を入力し、続けてセル参照の開始位置を指定することで他のシートにあるセルを参照できます。

<商品テーブル>は「テーブル」シートに作成されているので、「テーブル」シートを参照し表検索をします。

[範囲]は「テーブル」シートを選択し、範囲を設定します。(該当範囲を選択すると自動的に“テーブル!”が付加されます)

<商品テーブル>				<割引率テーブル>		<得意先テーブル>	
商CO	商品名	定価	期首在庫数	区分	割引率	得意CO	得意先名
11	商品A	2,480	73	X	9.1%	101Y	鈴木商事
12	商品B	2,610	69	Y	8.2%	102Z	ナカムラ
21	商品C	1,930	46	Z	7.3%	103X	SP総業
22	商品D	3,160	53			104Y	山川商店
31	商品E	2,880	64				
32	商品F	2,310	71				
41	商品G	2,230	53				
42	商品H	3,040	62				

商品別計算表						
商CO	商品名	仕入数	売上数	期末在庫数	利益額	在庫見積額
11	商品A					
12						
21						
22						
31						
32						
41						
42						

一部の文字だけが一致している文字列を検索する（ワイルドカード文字）

一部の文字だけが一致する文字列を検索するには、ワイルドカード文字を使用します。

商品名が「婦人服」で始まるデータを対象にする。

商品名に「婦人服」とつくものは「婦人服SS」「婦人服S」「婦人服M」「婦人服L」があり、この「婦人服」ではじまる商品名のデータをすべて対象として集計する場合、条件の値に「*」（アスタリスク）を付けることで、対象の文字を含むものを対象とすることができます。

6	商品名	商品名
7	婦人服*	紳士服*

※「*」は、半角で入力してください。

※「*」は〇文字以上の任意の文字列を表します。

ワイルドカードの使用例

商品	「商品」を含む文字列 A 商品、商品 A、A 商品 1 2 3
商品*	「商品」で始まる文字列 商品 A
*商品	「商品」で終わる文字列 A 商品

フィルターオプション

「オートフィルターオプション」では、複数の異なる項目で条件を設定する場合AND条件でしか設定できません。

	A	B	C	D	E	F
1	得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
2	1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000
3	1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
4	1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
5	1002	ATKA	101	商品A	20	10,000
6	1002	ATKA	102	商品B	30	30,000
7	1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
8	1003	精華商店	101	商品A	30	15,000
9	1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
10	1003	精華商店	103	商品C	20	30,000

オートフィルター オプション

抽出条件の指定:

数量

10

以下

☒ AND(A) ☐ OR(Q)

?

?

OK キャンセル

オートフィルター オプション

抽出条件の指定:

金額

40000

以上

☒ AND(A) ☐ OR(Q)

?

?

OK キャンセル

	A	B	C	D	E	F
1	得CO	得意先	商CO	商品名	数量	金額
11						
12						

複数の項目でOR条件による抽出を行う場合は「フィルターオプション」を使用します。

例) 数量 10 以下または金額 40,000 以上を抽出する場合

	A	B	C	D	E	F
1	得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
2	1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000
3	1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
4	1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
5	1002	ATKA	101	商品A	20	10,000
6	1002	ATKA	102	商品B	30	30,000
7	1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
8	1003	精華商店	101	商品A	30	15,000
9	1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
10	1003	精華商店	103	商品C	20	30,000

(1) 数量「10 以下」と金額「40,000 以上」を抽出条件として別に入力します。

	H	I
2	数量	金額
3	<=10	
4		>=40000

OR条件：条件の設定は、各列の異なる行に入力します。

操作のポイント

「フィルターオプション」はAND条件で抽出することも可能です。

AND条件：条件の設定は横に並べて入力します。

例) 数量 10 以下で金額 40,000 以上を抽出する場合

	K	L
2	数量	金額
3	<=10	>=40000

- (2) [データ]タブ-[並べ替えとフィルター]グループの[詳細設定]をクリックします。
[抽出先]に[指定した範囲]を選択し、[リスト範囲][検索条件範囲][抽出範囲]を設定します。

得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000
1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
1002	ATKA	101	商品A	20	10,000
1002	ATKA	102	商品B	30	30,000
1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
1003	精華商店	101	商品A	30	15,000
1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
1003	精華商店	103	商品C	20	30,000

得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額	数量	金額	得CO	得意先名	商CO	商品名	数量	金額
1001	ナカジマ	101	商品A	20	10,000			1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000
1001	ナカジマ	102	商品B	40	40,000			1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000
1001	ナカジマ	103	商品C	30	45,000			1002	ATKA	103	商品C	10	15,000
1002	ATKA	101	商品A	20	10,000			1003	精華商店	102	商品B	10	10,000
1002	ATKA	102	商品B	30	30,000								
1002	ATKA	103	商品C	10	15,000								
1003	精華商店	101	商品A	30	15,000								
1003	精華商店	102	商品B	10	10,000								
1003	精華商店	103	商品C	20	30,000								

関数

データベースの列から条件を満たす値を求める：DGET関数

DGET 関数は指定した列のセルから条件に一致する値を1つ求めます。

<DGET 関数>

=DGET (データベース, フィールド, 条件)

※[データベース]と[条件]は見出し(項目名)を含めて設定します。

※[フィールド]は列の位置を示す番号や文字列を設定します。

例) 数量が最大の得意先名を求める場合

得CO	得意先名	商CO	数量
1001	ナカジマ	101	100
1002	ATKA	102	60
1003	精華商店	103	300
1004	ホープ堂	101	150
1005	谷川屋	102	280
1006	満点倉庫	103	450

=MAX(データ表!D2:D7)

文字列をセル参照する：INDIRECT関数

INDIRECT 関数は、文字列をセル番地、シート名などとして扱うことができる関数です。
これを利用し、参照するシートを選択せずセルの値を使用して行うことができます。

<INDIRECT 関数>

=INDIRECT(参照文字列, 参照形式)

組み合わせて、表の見出しの値をシート名として用いて集計します。

例) 商COごとに前期・後期のシートから数量を集計する場合

=DSUM(INDIRECT(シート名&"!セル範囲"), フィールド, 条件)

参照するシート名をB2セルの値で設定する場合

=DSUM(INDIRECT(B\$2&"!\$A\$1:\$C\$10"), 3, \$A\$7:\$A\$8)

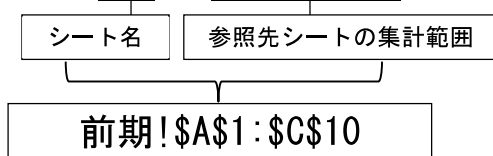
前期シート

	A	B	C	D
1	得CO	商CO	数量	
2	1001	101	10	
3	1001	102	20	
4	1001	103	30	
5	1002	101	40	
6	1002	102	20	
7	1002	103	30	
8	1003	101	20	
9	1003	102	40	
10	1003	103	10	

操作のポイント

表の見出しの値（前期・後期）をシート名として用いるので、

=DSUM(INDIRECT(B\$2&"!\$A\$1:\$C\$10"), 3, \$A\$7:\$A\$8)



=DSUM(前期!\$A\$1:\$C\$10, 3, \$A\$7:\$A\$8) と同じ処理となります。

※INDIRECT 関数を使用し、シート名の値を複合参照で行のみ固定 (B\$2) にすることにより、行列コピーした後の引数を修正する手間を省けます。

※シート名と指定する見出しセルの値は必ず同じものにしてください。(文字の全角・半角に注意)

表検索：MATCH・INDEX

MATCH 関数を使用し、範囲の中で特定の値を検索して検索範囲内での相対的な位置を返します。INDEX 関数でその値を使用し、行番号と列番号が交差する位置にあるセルの内容を求めます。

<INDEX 関数>

=INDEX(配列, 行番号, 列番号)

<MATCH 関数>

=MATCH(検査値, 検査範囲, 照合の種類)

例) 契約数と区分の値から乗率を求める場合

The diagram illustrates the process of finding a value in a table using the MATCH and INDEX functions. It includes a spreadsheet, a MATCH dialog box, and a table of values.

Spreadsheet Data:

日付	社名	契約数	区分	乗率
4/1	101	5	A	
4/1	102	25	C	
4/1	103	16	B	
4/2	101	17	C	
4/2	102	11	B	
4/2	103	14	C	
4/3	101	15	A	
4/3	102	34	A	
4/3	103	25	B	

MATCH Dialog Box (Left):

- 検査値: C2
- 検査範囲: テーブル!\$A\$4:\$A\$6
- 照合の種類: 1
- 数式の結果: 0.01

MATCH Dialog Box (Right):

- 検査値: D2
- 検査範囲: テーブル!\$B\$3:\$D\$3
- 照合の種類: 0
- 数式の結果: 0.01

Table of Values (Center):

契約数	区分		
	A	B	C
1	1%	4%	7%
15	2%	5%	8%
20	3%	6%	9%

E2セルで設定すると

=INDEX(テーブル!\$B\$4:\$D\$6, MATCH(C2, テーブル!\$A\$4:\$A\$6, 1), MATCH(D2, テーブル!\$B\$3:\$D\$3, 0))

MATCH 関数で得た行番号と列番号で交差するセルを表検索します。契約数（1行目）、区分（1列目）を＜乗率表＞から検索します。

	A	B	C	D	E
1	<乗率表>				
2	契約数	区分			
3		A	B	C	
4		1	1%	4%	7%
5		15	2%	5%	8%
6		20	3%	6%	9%
7					

余りを求める：MOD関数

指定された数値で割ったときの余りを求めます。

<MOD 関数>

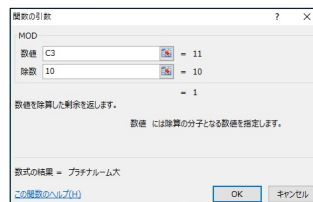
=MOD(数値, 除数)

※[数値]は割る対象、[除数]は割る数。

例) COが「11」(C3セル)の1の位を求める場合

=MOD(C3, 10)

※「11」を10で割った余り=1



日付から月を求める：MONTH関数

日付に含まれる月の値を求めます。

<MONTH 関数>

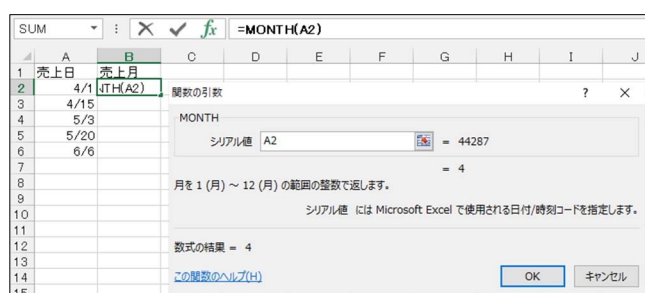
=MONTH(シリアル値)

※[シリアル値]には日付を指定します。

例) 売上日「4/1」(A2セル)の場合

=MONTH(A2)

※売上日 4/1 の月=4



条件に合った値を合計する：SUMIF関数

指定した検索条件に一致するセルの値を合計します。

<SUMIF 関数>

=SUMIF(範囲, 検索条件, 合計範囲)

※[範囲]には検索条件で検索する範囲を指定します。

※[検索条件]には条件となる数値や式、文字列を指定します。

※[合計範囲]には実際に合計する範囲を指定します。

例) 商COごとに数量の合計を求める場合

=SUMIF(データ表!\$B\$2:\$B\$10, A3, データ表!\$C\$2:\$C\$10)

	A	B	C
1	得意先CO	商CO	数量
2	1001	101	10
3	1001	102	30
4	1001	103	20
5	1002	101	60
6	1002	102	10
7	1002	103	30
8	1003	101	50
9	1003	102	20
10	1003	103	40



範囲に対応する値を掛け算して合計する：SUMPRODUCT関数

指定した列（配列）のそれぞれの行で掛け算をした値を合計します。

<SUMPRODUCT 関数>

=SUMPRODUCT (配列 1, 配列 2, ...)

※[配列]には掛け算をする列の範囲をそれぞれ指定します。

例) 数量と売価のそれぞれの行で掛け算をした値の合計を求める場合

=SUMPRODUCT (C2:C10, E2:E10)

関数の引数

SUMPRODUCT

配列1: C2:C10 = {10;20;30;30;20;10;20;20;30}

配列2: E2:E10 = {180;270;360;140;210;280;160;240;320}

配列3: = 配列

= 46800

範囲または配列の対応する要素の積を合計した結果を返します。

配列1: 配列1, 配列2... には要素の積の合計を求めたい配列を 2 ~ 255 個まで指定できます。引数となる配列は、行数と列数が等しい配列である必要があります。

数式の結果 = 46800

この関数のヘルプ(H)

OK キャンセル

SUMPRODUCT 関数の応用

指定した条件に該当する行ごとに掛け算した合計を求めることができます。

例) 商COごとの金額の合計を求める場合

データ表

データ表

集計表

この場合、配列 1 の中に条件を設定します。

=SUMPRODUCT ((データ表!\$B\$2:\$B\$10=A3)*1, データ表!\$E\$2:\$E\$10, データ表!\$C\$2:\$C\$10)

例) 商CO「101」の場合

商 C O				売価				数量			
101	⇒TRUE	× 1=1	×	180	=180	×	10	=1800			
102	⇒FALSE	× 1=0	×	270	=0	×	20	=0			
103	⇒FALSE	× 1=0	×	360	=0	×	30	=0			
⋮	⋮			⋮	⋮		⋮				
101	⇒TRUE	× 1=1	×	160	=160	×	20	=3200			
102	⇒FALSE	× 1=0	×	240	=0	×	20	=0			
103	⇒FALSE	× 1=0	×	320	=0	×	30	=0			
配列 1				配列 2				配列 3			

「(データ表!\$B\$2:\$B\$10=A3)*1」の式は、データ表シートのB2セルからB10セルの中で集計表シートのA3セル「101」と同じ値がある場合、「TRUE」、それ以外のは「FALSE」を返します。

これに1をかけることで、「TRUE」は1、「FALSE」は0に変換され、商COが「101」のものだけが掛け算の対象となります。

※条件の式（データ表!\$B\$2:\$B\$10=A3）は、必ずかっこで囲みます。

操作のポイント

その他の算術演算子を使用（足し算・引き算・割り算）

SUMPRODUCT 関数は、配列 1、2 などの間のコンマを算術演算子(*、/、+、-)に置き換えると配列同士の計算を行うことができます。

例)

支払額 = 仕入額 - 値引額 ※基表の同項目の値を計算後、集計する。

=SUMPRODUCT((データ表!\$A\$2:\$A\$25=A3)*1, データ表!\$C\$2:\$C\$25-データ表!\$D\$2:\$D\$25)

条件

仕入額

値引額

- (マイナス)

並べ替え処理に関する注意点

シートをまたいだ式や関数の設定をする際に、数式の項目に設定を行っているシート名（自シート名）が入っている場合、正しく並べ替えがされないの、並べ替えがある処理は気をつけてください。

例)

- 1) 金額 = 単価 × 数量
- 2) 数量の降順に並べ替える。

	A	B	C	D	E
1	<単価表>				
2	商CO	商品名	単価		
3	101	商品A	100		
4	102	商品B	500		
5	103	商品C	1,000		

数量にシート名が付いた式

D2	=VLOOKUP(B2,テーブル!\$A\$3:\$C\$5,3,0)*データ表!C2									
	A	B	C	D	E	F	G	H		
1	得CO	商CO	数量	金額						
2	1001	101	10	1,000						
3	1001	102	20	10,000						
4	1001	103	40	40,000						
5	1002	101	30	3,000						
6	1002	102	50	25,000						
7	1002	103	5	5,000						

数量にシート名が付いていない式

D2	=VLOOKUP(B2,テーブル!\$A\$3:\$C\$5,3,0)*C2									
	A	B	C	D	E	F	G			
1	得CO	商CO	数量	金額						
2	1001	101	10	1,000						
3	1001	102	20	10,000						
4	1001	103	40	40,000						
5	1002	101	30	3,000						
6	1002	102	50	25,000						
7	1002	103	5	5,000						

数量の降順に並べ替え

正しく並べ替えされない

数量を参照しているセルがずれている

SUM	=VLOOKUP(B2,テーブル!\$A\$3:\$C\$5,3,0)*データ表!C6									
	A	B	C	D	E	F	G	H		
1	得CO	商CO	数量	金額						
2	1002	102	50	25,000						
3	1001	103	40	30,000						
4	1002	101	30	2,000						
5	1001	102	20	20,000						
6	1001	101	10	5,000						
7	1002	103	5	5,000						

正しく並べ替えされる

SUM	=VLOOKUP(B2,テーブル!\$A\$3:\$C\$5,3,0)*C2									
	A	B	C	D	E	F	G			
1	得CO	商CO	数量	金額						
2	1002	102	50	25,000						
3	1001	103	40	40,000						
4	1002	101	30	3,000						
5	1001	102	20	10,000						
6	1001	101	10	1,000						
7	1002	103	5	5,000						

※並べ替えの指示のある表は該当項目に処理をする自シート名がないことを必ず確認してください。

解答の上書き保存

答案はデータでの提出になりますので、必ず上書き保存をしてください。